

令和4年度第3回「OPEN！みんなで話そう！やまさき市長とともに」概要

日 時	令和4年12月18日（日）10：00～11：45
場 所	中央公民館 ホール
テーマ	「宝塚市の未来を育む小中一貫教育について」
出席者	市民10名
	山崎市長、教育委員会職員3名、市民交流部職員5名

1 開会

- (1) 市長挨拶
- (2) 本日の流れについての説明
- (3) 自己紹介

2 市民と市長との意見交換

- (1) 教育委員会によるテーマの説明（30分程度）
- (2) 意見交換

ア 【市民】小中一貫教育について、近隣の市に電話でヒアリングをした。西宮市は既に小中一貫教育を始めていた。伊丹市・川西市・芦屋市は、現在必要性を感じていないため、当分の間は現行どおりという回答だった。西宮浜小学校に、小学5年生の英語・数学の授業内容について聞くと、4年生までは今までと一緒だが5年生からは中学校の先生が教えるという説明だった。西宮市の教育委員会に行って詳しく話を聞き、（小中一貫教育を）積極的に進めるべきだと感じた。一番良いと思ったのは、小学5年生から中学校の先生が教えること。西宮市は4・3・2制で分けている。十分に検討して、英語や数学などそういう教育は早くやった方が良い。もう1点は、中1ギャップについて。小中一貫教育ならそのギャップが解消され、ひいては不登校の問題も解消されるのではないか。弱い人を守るために大切なこと。難しくても、すぐに実践するような気持ちで取り組んでいただきたい。

イ 【市長】実際に小中一貫をやると決めている。西谷と中山五月台をモデル校として進めていきたいと思っている。小中学校一校一校が繋がっているのがその2校。

ウ 【市民】今日は保護者がほとんどいない状況。こないだの運営協議会で、西谷がモデル校になっていることを初めて聞いて驚いた。保護者も現場の先生も知らなかった。西谷の場合、複式（学級）をどうするかで現場は大変。先生を地域皆で支えている状況。今日の説明を聞いて、地図に当てはめてできるというのは現場の感覚と全然違うと思った。（小中一貫に対する）思いは強いかもしれないが、本当に丁寧にしてもらわないと、先生も倒れてしまう。このような答申が下りていることを先生も知らない。現役の先生達が声をあげて作られた答申なのか。丁寧に作らないと、子どもも保護者も混乱する。

- エ 【市長】この場に保護者がいないことについて、広報たからづかで参加者を募集すると、広報を読み込む年代は若くない。これは、教育の問題であれば、本来は教育長と話を詰めていくところだが、大きな方針を定めるときには皆さんの話を直接聞きたいと思ってやっているの、ここで決まってしまうことは無い。また、教職員や職員に関しては、いつでも私と話せるため、ここにお越しいただくのは職員ではない人になっている。もちろん、教職員の方々にも実際にやってもらうことなので、その時には教育委員会から丁寧に話をする。「慎重に」というのはその通り。子ども達の教育環境を整えるために、子どもにとって何が良いのかを一番に考えて、今のままで良いのか、今の子ども達の成長に合わせた柔軟な教育ができる環境を子ども達に提供するのが大事である。西宮は変化を選んだ。他の市は変化を求めている。宝塚は、宝塚の子ども達を考えた時に、今の子ども達に合ったものを整えようと考えたところ。計画を立てる上で、頂いた意見も踏まえて慎重にやっというと考えている。この件で皆さんと話するのはこれだけではない。もっと詰まっていた段階で、教育（委員会）からも話す機会や説明する機会も出てくる。そのときに今のご意見も踏まえて考えていきたい。
- オ 【市民】課題として、先生達の多忙感や負担感がとても大きい。先生達は合理化する形にもなる。中学校の先生が小学校に教えるに来るとするのは逆行している。コロナ禍で学校自体の現場が大変な状況にあるところ、人員を減らす、学力をつけるだけではなく、家庭状況が大変なお子さんもある。そういう子ども達に、しっかり目が届くような学校づくりをする必要がある。
- カ 【市長】今、部活動の地域移行の検討も進んでいて、先生達が部活動に充てる時間を地域に移行することで、学校教育から切り離し、先生達が新しいことをする時間が出てくる。また、宝塚市ではコミュニティスクールを積極的に進めている。地域の方の力を借りて、先生達を楽にするために進めるわけではないが、結果として、子どもに関わる人が増えていくことで、先生方も違う関わり方・違う時間の使い方ができるようになると思う。色々な手を打ちながら乗り越えていかないと、次のステップには行けない。先生方の働き方に関しても、やりながら進めていこうと思う。
- キ 【教育委員会】小中一貫教育となると、中学校の先生が小学校を教えるので「中学校の先生に負担が出る」と感じられると思うが、実はそうではない。小学校5～6年生の担任は、小中どちらの免許も持っている人を配置する。小中両方の免許を持っている人を小学校の教員に充てることで、特段負担にならないような構成にはなっているが、現状では小中両方の免許を持っている人だけで賄えるわけではない。過渡期に関しては、1～4年生は小学校の免許だけ。5～6年生は小中両方の免許を持っている、という運用があると思うが、ゆくゆくは、小学生を教えながら教科担任もすることになると思う。そこは教員の負担にならないように考えていかないといけない。
- ク 【市民】昨日、小中一貫校について地域の小中学生の保護者に聞いてみたが、皆知らなかった。これから進めていくなら、子ども達や保護者の視点でメリット・デメリットを

しっかりとまとめて対話をしていくことが必要だと思う。当日資料 p. 5 を見ると「多様な異年齢交流など子ども達の～」とある。これは子どもの視点だと思う。確かに、今の時代なら多様な異年齢交流は必要だと思う。最近、うちの地域のサッカークラブが、子どもが少なくなりチームが形成されず、小学校高学年と同じチームにしたら1つ方向が見えてくるのではないかという話もある。そういう意味で、子ども達・保護者の視点でもう少しまとめて、話し合いを進めていけるようになれば非常に良い。

ケ 【市長】子どもの視点は「絶対」。地域の理解なくしては出来ないことなので、ここに今日、教育（委員会）と市民交流部長もいるのは、地域とともにやっという思っているから。今の意見を踏まえてやっという。

コ 【市民】まず、当日資料 p. 12 にある「1 本市における通学区域の整合に向けた取り組みについて」。私の住む地域では、初めて2つの小学校を1つに統合して新しい小学校を立ち上げた。（通学区域の）整合に向けた取り組みを実施したことになる。この2つの小学校ですら、統合後にいろいろな問題が出てきている。本当に校区が入り混じっているところは、整合に向けた取り組みについての理解を求めため、5年10年のスパンをかけて、保護者にも地域にも説明していかないといけないと思う。統合後がとても大変。小中一貫を実施後、保護者・先生・子ども達へのフォローの方が、小中一貫に向けてよりも、2倍3倍の予算・人的支援、心運びなど、色々必要になってくる。それも併せて計画してほしい。形が整えば終わりではない。子ども達が統合や小中一貫に対して、色々な変化に一生懸命馴染もうとするが、10年のうちの10分の1の人生がごろっと変わる切り替え時になるので、そのあたりの視点を持って教育改革をしてほしい。

サ 【市長】予算措置は、しっかりと協議をし、必要なものをつけていきたい。子どもや先生の環境が大きく変わるはそのとおり。変わる目的は、今の子ども達に、いかに合った教育を提供できる環境を整えていくか。先生達も子どもの教育環境の1つだと思っている。先生達を人として見れば「労働環境」だと思うが、子どもから見れば「教育環境」。それらもすべて運用していかないといけない。私たちが課題だと思っながらも、やっという中で新たに課題が出てくるかもしれない。そのためにも、柔軟に変化を持ちながら、一番良い形で進めていこうと思っている。

シ 【市民】小中一貫にすることで、才能を伸ばすのか。エリート教育をするのか。

ス 【市長】才能を伸ばすというよりは、今の子ども達に合った教育を提供していくということ。今の子ども達に提供している教育は、昭和22年からの制度に基づいてやっという。当時の子どもと（比べて）今の子どもは、精神的にも肉体的にも成長が早い。昭和22年の子ども達には、SNSもインターネットも無かった。今の子ども達は、自分で検索するだけでいくらかでも情報が入ってくる。それが正しい情報では無くても。新たに複雑な課題やいじめが出てきて、いろんなことが起こっている。精神的・肉体的に、当時の小学6年生が、今でいうと小学校4年生ぐらい。今の4年生に早く本来の自分に合った勉強ができる環境をつくる。

- セ 【市民】それ(小中一貫教育)が出来ない人はどうするのか。できる人に合わせるのか。
- ソ 【市長】できる人に合わせるわけではなくて、皆に。1年生から2年生、2年生から3年生という風に同じように進んでいく。その中での教育課程が変わってくる。皆に勉強する機会を提供する。
- タ 【教育委員会】基本的には、義務教育という9年間のカテゴリーは変わらない。義務教育でいう、中学校1~3年生は後期課程に行けないということはない。通常通り進学していく。エリート教育や才能を伸ばすということではなくて、9年間の中の教育システムを入れ替える。例えば、今も少し始まっているが、以前、英語は中学校に入ってからだったが、小学校から取り入れている。教員も、英語や理科の先生は一部の学校に入っている。数学の先生が算数を教えたり、体育の先生が小学校に配置されたりもしている。専門性のある先生が、より低学年の子を教えることによって伸ばしていこうとするので、少し分かりにくい子も、専門性を持った先生が教えることで、より「分かる」に繋がっていく。むしろご心配の部分が解消される。このような取組みが小中一貫である。
- チ 【市民】お金はかかるのか。税金は使うのか。
- ツ 【市長】お金はかかる。教育委員会から、小中一貫をするときに、こういうことをするために、これだけのお金が必要というのが、毎年、予算査定のときに上がってくる。そのときに、私と教育委員会は、その金額でいいのか、この事業自体必要なのか、とことん話し合っている。市民の大切な税金を無駄に注ぎ込むことはしない。必要なものはする。
- テ 【市民】お金を1円でも使うなら、市議選や市長選の争点にしたほうがいいのかなど。
- ト 【市長】選挙でお金の使い方を決めるわけではなくて、予算として市議会に出して、市議会議員が協議をしていくので、選挙の争点にしなくても良い。必要なことを必要なタイミングでやりたいと思っている。お金は、税金、国や県への予算要望を通して貰うなど、色々なところから来る。今後、少子高齢化の影響で、高齢者と経済的に支える人が同じ数になり、支えられる人たちの民生費が大きくなっていく。宝塚市の年収を上げるためには、宝塚市の経済を回して、市民皆が活性化して稼ぐ。その施策も同時に設ける。そこで収益を上げて、そのお金を教育に使う。小中一貫だけではなく、経済施策も福祉もやる。
- ナ 【市民】小学校も中学校も既にあるので、新事業に一気にお金を注ぎ込むというよりも、仕組みや予算配分を変えたところに、多く配分することも、配分しないこともある。
- ニ 【市民】西宮市は20年以上、小中一貫の実績がある。(生徒の)数が増えていて、西宮浜の学区ではなく西宮市の遠いところからも来ており、西宮市民に実績を評価されている。こういうことは前向きに見てもらいたい。慎重な話をもっともだと思うが、何かしようと思えば問題が出てくるのは当たり前。現状維持よりは良い方に変えていく努力をしようと、行政側から自発的に問題提起をしてくれたことを高く評価したい。私が一番心配しているのは、合理化のもとに教員の数が増えないか、ということ。

- 又 【市民】中山台小学校は、今年度から中山桜台小学校と中山五月台小学校が統合して、1年目を迎えた。統合の時から関わって、教育環境適正化検討委員会も初回から参加していた。協働のまちづくりということで、地域の方や保護者、色んな方が参加して話し合いを重ねてきた。現場にいるからこそ、先生・保護者・子ども達と市のギャップは正直あると思う。今回、桜台小学校の校舎を使って統合したため、中山五月台小の子ども達は桜台小学校に移動して学んでいる状況。しんどくなっている子は今でも出ている。この統合の話を市でどのように捉えているのか調べたところ、教育総合会議で、問題ないという話が上がっていてびっくりした。現場と市は違うと思った。今回の統合にあたって、統合前後もアンケートはとられていない。途中でやっとアンケートをとってもらって、保護者の声も聞いてもらって、参考にしますと言われたが、あまり（参考に）していないと感じる。保護者側で納得がいかない人も正直いる。それが統合後にも出ている。丁寧に進めるというのはどういうことなのか、理屈や理由付けではなくて、本当の意味での子どものためとはどういうことなのか、保護者の意見を聞くとはどういうことなのか、再度、今回の統合を振り返ってちゃんと考えてほしい。小中一貫をダメと言っているわけではない。一回やってみた結果、統合後よりも、小中一貫の方が課題というのも沢山出てくると思うので、そこも踏まえて、しっかりと協議をした上で考えていくことが大事だと思う。今回、PTAで保護者にアンケートをとった。市がされないの。色んな声が上がっている。しんどくて泣きながら学校に行っている子もいる。先生方が何もしていないかというとなんか無いです。統合にあたって本当に混乱した。今でもずっと考えながら支えていってくれている。それでもこんな状況ということも市も分かってほしい。
- ネ 【市長】統合後の子ども達の様子が気になったので、直接子ども達と話をする時間をとって、学校の生活や友達のことなどを聞いた。先生方の話も聞いた。全く問題が無いとは思っていない。全く問題が無い学校も存在しない。必ず何かが起こる。それが統合のせいなのか、違う要因なのか分からないが、問題は必ずある。統合した学校だからではなく、どこの学校の子どもに関しても、問題が起こったときには、私たちはきちっと丁寧に対応していく必要があると思っている。
- ノ 【市民】確実に統合による問題が起こっている。学校が変わってしんどくなる子達のためにどうするのか、フォロー体制など、市として何もされていないとは思っていないが、それでも全然足りない。協働のまちづくりで協働の会議をさせてもらい、PTAの保護者と一緒に参加した。保護者の意見をもう少し聞いてほしかった。本当の意味での協働のまちづくりとは何なのか。今日、市民協働推進課の職員もいるので、考えてもらいたい。市として取り組んでいただきたい。
- ハ 【市長】子どもに寄り添った貴重なご意見。実際の経験からの心構え。今の話はここの部長クラスが聞いている。丁寧に対応してやっていこうと思う。
- ヒ 【市民】昭和22年にできた学校の制度が現在も続いていて、中身は変わっているが制

度自体は変わっていないことに一番驚いた。この75年間、色々な面で教育のギャップが出てきている。中山台小学校の統合問題があり、マイナス面が非常に大きいという発言があったが、私の場合は、子どもの話や顔を見ていると、通常の学校行事ができることも含めて、物凄く喜んでいるという実感を持っている。パトロールの時間帯に児童達が帰ってきて、「行事（開校記念式典）どうだった？」と聞いたら、皆「良かった」と喜んでいて。地域によって違うと思うが、今回の中山台の統合問題は、子どもは「非常に良かった」という実感を持っていると思うので、さらにフォローをして、良い方向に進むように、地域の者としてこれからも努力していきたい。小中一貫については、メリットを大いに生かして、将来に向けてやってほしいという希望がある。

- フ 【市長】私も式典に参加した。教育長が挨拶の中で、「友達がいっぱいできた人？」と聞くと、大きな声で「はい」と手を挙げた。その姿を見ていて、良かったと感じた。フォローをしっかりと入れながら、色んなことを進めていきたいと思う。
- ヘ 【市民】宝塚では、小中から宝塚北高・東高を目指して頑張ろうという具体的な目標ができていて、その先の大学入試にすごく貢献している学校がある。これからは学力もつけないと大変な時代になると思う。それは素晴らしいことなので、続けて行ってほしい。
- ホ 【市長】学力は生きてくるにあたって必要だった。学力がないと出来ないことは沢山あったと思う。私たちの目標は、この未来を生き抜く力をつけること。これに学力も含めている。
- マ 【市民】民間にいた人間からすると、行政のスピード感がすごく遅いと感じている。計画となると10年後、20年後を見越してといわれるが、民間企業だと通常3~5年で回している。今日話を聞いていて、丁寧にやらないといけなるところと、ダイナミックに改革しないといけなるところの2つあるかと思う。従来6・3制の弊害が劇的に出ているのは明らか。色々なことを変えようとする、やらないといけなことが山のように出てきて現状維持となり、今まで何十年も変わってこなかった。コロナが出て1年で劇的に変わり、リモート教育ができるようになった。小学生にもタブレットで教育する。20年前から言っていて出来なかったことが、コロナ1つで1年でできた。これが皆さん（行政）の実力だと思う。このスピード感で小中一貫にも取り組んでいかないといけないと思うが、現場はそうではない。生徒に聞いたら喜んでくれた、でも1割の生徒が嫌だと言ったら駄目だと言われてしまうと、身動きがとれなくなる。これはトップが汗を掻くしかないので、市長には、現場に行って説得してもらおうとか、柔と剛を上手く使い分けて早く推進してもらった方が、生徒や学童にとってはきっと良いことがある。20年30年積み重ねてきた課題を、我々大人が見て見ぬふりをしてきたのがこの現状だと思う。いじめで何人亡くなっているのか、統合によって不登校になってしまう数とどっちが多いのか。決断は市長しか出来ない。
- ミ 【市長】私も民間企業に勤めていたので、予算を審議してもらう時間がどうしてもあるが、スピード感の違いは感じている。今の課題を10年後に解決しても、その間にもつ

と上乘せしていく課題が増えていく。どこかで決断しないといけない。そこで小中一貫を決断したのが私たちなので、しっかりと進めていこうと思う。駄目と言われることもあると思うが、なぜ駄目なのか、その理由を私たちが捉えて手当をしていけば、駄目では無くなることもあると思う。課題を解決しながら進めていきたい。私は一方的にしようと思っていなくて、皆の意見を聞いて、皆にとって一番良いと思うことをやりたいと思っている。スピード感を持って進めていきたいと思っている。

- ム 【市民】スピード感など、そのとおりの部分もすごくあると思う。統合してみて感じたことは、やり方が下手くそ。ポイントを押さえて、上手く皆の意見を取り入れて進め方を考えていけたら、こんな統合のやり方にはならない。今後進めていくときには、悪い意見ばかりではなく、これを踏まえて、そこをポイントにして持って行けたらいいとか、そこをポジティブに捉えてやっていけたら良いと思う。自分の子どもも実際不登校になった。しんどさは親としても分かっている。そのしんどさを、少数だからといって蔑ろにするのではなくて、ポイントとして捉えてフォローができれば、逆に「統合してこんなにフォローしてくれてなんて良い学校なんだ」という感想に変わる。そういうことも踏まえてしてもらえたら良いと思う。
- メ 【市長】ご経験の中言葉はとても重いもの。ここで皆聞いているので、しっかりやらせていただく。

3 閉会

- (1) 市長挨拶
- (2) 事務連絡（アンケートの協力依頼）

以上